1. 知事の政治姿勢について

（1） 世界情勢と平和希求、国際交流、国際人の育成強化

「平和ほど、尊きものはない。
平和ほど、幸福なものはない。
平和こそ、人類の進むべき、根本の第一歩であらねばならない」

私ども「平和の党　公明党」は、先月、11月 17 日で結党 59 年目を迎えました。その結党の意義を改めて認識し、哲学を持って県民の皆さまの命を守る、生活を守るとの強い意志を持ち活動してまいりたいと決意しております。

世界では、大変な不安定な状況の中で、各地域で、終わりの見えない戦争や紛争が続いており、沢山の悲しく、悲惨な事件が起こっています。

終戦から 78 年が経つ本年、我が国では、本日より2日間にわたり、被爆地長崎において、政府主催の第3回目の国際賢人会議が開催されております。この会議の目的は、核廃絶への具体的な道筋の議論であり、現在では、核兵器禁止条約による核廃絶が難しい状況である以上は、まずは、現実に即した軍縮を進めるべきであると考えます。

核廃絶の実現には、核の非人道性を言及していくことと同時に、核に依存しない安全保障も考えていく必要があります。しかしながら、核兵器の脅威が、現在、冷戦後で最も危険なレベルになっている状態の

中で、核兵器保有国は、核兵器の先制不使用の方針を、各国が明確な形で示し合うことが本来、重要であると認識いたします。

さて、日本は、国連に加盟して67年を迎えます。

国連憲章の冒頭の1条1項には国際の平和と安全の維持を目的としています。また、それに続き条文の中には、人々が自らの政治体制・社会制度を決定できる自決権を認めるとともに、経済的、社会的な国際協力を求めています。加えて、人権の尊重と基本的自由の重視をも訴えております。

近年になって、人間の安全保障が重要視されるようになり、これほど国際間の交流が、今こそ重要になった時代はこれまでにはないと思われます。

そこではじめに、県民の命、安全安心な生活を守る知事として、現在のこの不安定な世界情勢を鑑み、平和希求についての思いを改めてお伺いいたします。

また、本県としての国際交流の方針、世界に通用する国際人の育成強化について知事のお考えをお聞かせください。

【服部知事の答弁】

①　平和希求の思いについて

ロシアのウクライナ軍事侵略、イスラエル・パレスチナ情勢をはじめ、世界各地で戦争・紛争が多発し、日本周辺においても、一方的な現状変更の試みや、北朝鮮の核・ミサイル開発は続けられ、安全保障環境は戦後最も厳しいものになっています。

私は、県民の生命・生活・財産を守ることを第一と考えています。これらを武力によって破壊する戦争は、いかなる理由があっても認められず、決して許すことはできないと考えています。

② 県の国際交流の方針及び世界に通用する国際人の育成強化について

国際社会が不確実性を増し、大きく変化する今、世界の平和、社会経済の安定、そして地域の安全、安心を持続可能なものとするためには、本県として、友好提携地域をはじめ世界各地との間で、人と人との交流、地域間交流を積み重ね、相互理解を深めていくことが重要です。

また、こうした交流を推進するには、若いころから異なる文化や多様な価値観を尊重しながら、他者と協働できる力を育む必要があります。

このため、県では、世界各地から招へいしたこども大使との交流を通じて、本県の小学生のグローバルな視点を育む「アジア太平洋こども会議」への支援を続けており、また昨年度から高校生を対象に、世界トップレベルのスタンフォード大学による異文化理解教育プログラム「Stanford e-Fukuoka」を実施するなど、世界に通用する国際人を育成するための取組を進めてまいります。